自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0193500121		
法人名	医療法人社団　上田病院		
事業所名	グループホーム　たんとん　（海ユニット）		
所在地	室蘭市日の出町2丁目2番26号		
自己評価作成日	平成26年2月25日	評価結果市町村受理日	平成26年4月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0193500121-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ご家族の方との信頼関係に基づいた援助関係を作るように努めています。面会に来て下さるご家族も多く、行事などにも参加してくれています。元気な方と車いす生活している方がいますのでその方々に合わせて生活をしています。元気な方には現在の生活を維持できるように筋力維持のためのストレッチ、階段昇降を行っています。冬期間でもドライブなど外に出る機会を作っています。塗り絵や貼り絵などの作品作成を行い廊下などに展示して家族の方に見てもらう等の工夫をしています。スタッフが考えて文字合わせなどもテーブルで遊べるように工夫しています。空ユニットと相談して運動会やミニゲーム大会、お好み焼きパーテーなど毎月行事を行うようにしています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4　高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成26年3月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

当事業所は、室蘭市東室蘭地区の閑静な住宅地に位置して、鷲別駅から徒歩圏内の利便性がよい立地にある。二階建て2ユニットで、リビングや廊下も広く、室内で運動会が行えるほどゆったりとした空間である。運営母体は医療法人で、他にもグループホームを2ヶ所運営しており、内一つの3ユニットが当事業所に隣接しており、2事業所の間に「コの字型」の大きな中庭があり、利用者は冬期間以外は毎日日光浴をして外気を感じている。医療法人のノウハウを元に、職員は「ひとりの人間として尊重する、その人のもっている能力を最大限に発揮、共に生活する家族のような気持ち」の3つのケア理念を日々実践につなげている。また、職員が日替わりでユニットのリーダーを務めるなど独自の人材育成方法を実践しており、職員の成長が著しい。設立から2年を経過したばかりだか、隣接した同法人のグループホームと連携した地域密着型サービスの地域の拠点としての活躍を今後も期待したい。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケア理念を作成して玄関に表示している。理念に沿い安心と尊厳のある生活が出来るように努めている。	法人共通の三つのケア理念があり、玄関に掲示され、職員個々にカードで所持しており、職員それぞれがケア理念に基づいて実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の方には防災訓練や救命救急講習会への参加、バーベキューなどにも参加してもらっている。たんとんからも公園の清掃などには入居者さんと一緒に参加している。	町内会の行事や公園の清掃など利用者と一緒に参加している。また、事業所主催の救命救急講習会やバーベキューなどの行事に地域の方が参加しており、日常的に交流している	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、防災訓練などに参加していただきながら認知症の方の接し方など地域の方に理解してもらっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に参加していただき業務報告などを通じて支援の方法に質問などもあり認知症に関しては理解してもらっている。	運営推進会議は、隣接の同法人事業所と合同で定期的に開催しており、市担当者や包括センター担当者、消防署員、町内会長、家族の参加で、運営状況の報告や意見を聞きサービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定調査などを行い市役所の担当の方とは連絡を取りながらケアサービスの取り組みなど理解してもらっている。運営推進会議を通して事業所の取り組みを伝えている。	介護認定調査や利用状況の報告など市担当者へ定期的に連絡し、相談している。また、運営推進会議の報告や開催予定の打合せなど日頃から協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては契約書にも記載している。通常の介護では生活できない方もおり家族と話し合いをして車いす生活時、就寝時拘束を行っている方が1名いる。玄関の施錠は行っていない。	身体拘束をしない指針とマニュアルを整備して、職員の委員会を中心に研修会を同法人他事業所と合同で行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修などで虐待について学び、職員間でも接遇委員会で言葉使いなどお互いに注意し合えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	空ユニットに後見人制度を利用している方がいる。後見人の方も行事などにも参加してくれるので職員は理解できている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、家族と十分に話し合い理解していただいたうえで捺印してもらっている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、家族に最近の入居者さんの様子を説明し、要望などを聞くようにしている。また苦情窓口を設置し意見や苦情があった場合は速やかに対応できるようにしている	運営状況は、毎月ホーム通信を発行し、利用者の生活状況は担当者からの手紙で家族に報告している。家族からの意見や要望は、主に面会時に聞き取りして運営に反映している。	利用者や家族からの意見や要望、苦情の受付の態勢は整備されているが、気軽に意見や苦情が言えるプライバシーに配慮した意見箱などの設置を期待する。また、運営推進会議の内容は、ホーム通信に記載しており、今後も継続して家族等へ報告願いたい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議などで職員の意見を聞き、勉強会や研修時などで意見交換を行い検討している。	月1回ユニット会議を行い、年2回施設長と個人面談を実施して、職員の意見を聞いている。また、年1回事例発表会をグループ合同で行い、職員の質的向上に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員に自己評価を行っている。施設長と個別に面談を行い状態を把握している。資格取得のための研修会、勤務調整も行い個人の向上心が持たれるようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の勤務年数に合わて個別に研修などを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3市で行っている広域連絡会、室蘭市の連絡会などの研修会に積極的に参加し情報の交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、本人、家族と面談を行い担当のケアマネなどから情報を収集している。入居時には本人の行動や表情など観察しながらアセスメントを行い課題を見極めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、家族と話し合い要望を聞きながら対応している。入居時は2週間ごとにケアプラン作成し家族に説明安心していただけるようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時は2週間ごとにアセスメントを行いその時の状況に合わせた支援が出来るよう家族と話し合い対応している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活する家族のような気持ちで接し職員との信頼関係を作っている。その人がその人らしく生活できるようにしている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは常に情報を共有し、家族の意向など聞きながら支援している		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人の面会が頻回で家族同士も仲良くなったりしている。家族との外出や外泊は自由に行っている。	利用者が地元の方がほとんどな為、毎日、家族や友人の面会があり、家族との外出や職員同行での近隣のホームセンターへの買い物など、関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクや行事などを通じて入居者さん同士が関わり合いを持つようになってきている。車いすの方に元気な方が話しかけたりしている		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで退去した方などは経過を聞きながら必要に応じて相談にのっている		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族の希望を聞き、自由に生活してもらっている。意思疎通の難しい方は家族の方に話を聞きながら対応している	みんなで行動したい方や思いのままに過ごしたい方など本人や家族から希望を聞き、本人の意向を把握して、本人本位のケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の方から話を聞いたり、一緒に生活していくうちに本人から話を聞いたりしている。独居の方などは担当のケアマネから情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者さん一人ひとり自由に生活していただいている。本人の力量など見極めてそれぞれに合った支援をしている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や、家族の希望など聞き、アセスメントを行いサービス担当者会議、ユニット会議などで話し合い職員の意見を聞きながら介護計画を作成している	本人や家族と十分に話し合いをして、意向を確認し、アセスメントを行い、サービス担当者会議・ユニット会議で職員全体で検討し、施設長との協議の上、利用者の現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録を記入、申し送りなどで情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族から希望があれば対応できるようにしたい		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	室蘭市介護支援ボランティア事業の参入、町内会の方などに行事への参加を通じて認知症への理解をしていただいている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的にかかりつけ医に受診している。またその時の症状に応じて皮膚科、整形外科、歯科、眼科など受診している	整形外科・歯科・眼科などのかかりつけ医には、職員同行で定期的に受診している。訪問健康相談が月2回、訪問看護もあり、適切な医療が受けられる支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者さんに変化などみられた時には看護師に報告し医師の指示を仰いでいる。月に2回法人内の医師が健康相談、訪問看護で看護師が来訪してくれている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には介護添書を記入し日々の生活状況を知らせている。入院先の担当者とも連絡を取り合い退院後の生活を相談している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居後3ヵ月経過した頃、家族とも話し合い終末期の覚え書きを作成している。また主治医とも連携をとり家族の希望に添えるようにしている	重度化や終末期に向けた対応は、契約時に利用者や家族に説明しており、入居3ヶ月後に再度話し合い、主治医と連携の上、家族の希望に対応するよう支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアル作成している。研修時での勉強や、毎日の申し送りの時にシュミレーションを行い対応できるようにしている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を町内会参加で行っている。職員全員が対応できるようにしている。室蘭市の地震災害避難訓練にも参加している	防災訓練は住民の方も多数参加して、消防署の指導の下、年2回実施している。また、室蘭市の地震災害訓練にも昨年から参加して、災害対策の地域との協力体制の構築に努めている。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシを守り一人の人間として尊重して声のかけ方など注意している	職員での接遇委員会を中心にプライバシーや人格の尊重を検討して、特に声掛けは職員同士で気配りするなど配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重している。希望などある時はそれに沿うようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの生活の時間を大切にして自由に生活をしてもらっている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る洋服などは本人の意見を聞きながら選び散髪や顔そりなども定期的に行っている		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に調理する方はいない。本人の好みを把握して提供している。食事時間はテレビを消し音楽をかけながら食べてもらっている。	メニューはユニット合同で作成し、仕入も一緒に行い、ユニット毎に調理している。1ヶ月に一度合同で食事会を行い、お好み焼きパーティなど、利用者の希望を活かした食事になるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量の把握、記録記載している。一人ひとりの状態に合わせてミキサー食、キザミ食、糖尿病食など提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけ自力で行える方は見守りを行い出来ない方は介助している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間毎のトイレ誘導、本人からの訴え時の誘導を行っている。排泄パターンを把握しているのでオムツをしている方でも午後から布パンツにパット使用で生活している方もいる	ひとり一人の排泄パターンを把握しており、顔の表情や体の様子で察知して、ひとり一人の声掛けに配慮し、トイレでの排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便の確認、定期的な下剤の服用を行い調整している。野菜ジュース、糸寒天、ヨーグルトなど定期的に提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週２～３回入浴してもらっている。車いすの方でも職員が２人で対応して浴槽に入ってもらっている。入りたくない時には無理強いせず翌日に入るなどの対応をしている	入浴は週2･3回しており、希望があれば自由に入浴できる。嫌がる人には、その時の状況に応じた工夫をして、個々に合った支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分の好きな時に自由に休んでいる。日中休む時にはカーテンをするなどの配慮をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示のもと服薬している。服薬時には声を出して名前、日付の確認を行い誤薬防止をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	１人ひとりに合った役割や楽しみを見つけ出してやっている。好みの水分提供などにも心がけている		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外へは出来るだけ出てもらうようにしている。暖かな季節は散歩してもらい、冬期間でもドライブ、近隣の植物園などに行っている。季節ごとに水族館、ぶどう狩り、なども行っている	隣接する同法人のグループホームとの中庭が広く、ベンチ3台設置して、日光浴や散歩など、冬季以外は、利用者は午前中、ほとんど中庭で過ごしている。植物園や水族館などの外出は、家族も一緒に参加できるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っている人はいないが本人が希望した時には一緒に買い物に出かけたりしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	玄関に公衆電話を設置している。本人が希望した時には家族など電話使用している。また遠くの家族からも電話がかかってくることもある		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やリビングが広く行事なども行っている。リビングは陽がさして明るくソファーで日向ぼっこをする入居者もいる。季節感を感じてもらえるような飾り付けなども行っている	廊下やリビングが広くゆったりしたスペースで、採光や風通しもよく、日向ぼっこや、年1回運動会の玉入れを行うなど、広々とした居心地のいい空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い人同士で椅子に座りテレビを観たり体操をしたりしている。それぞれに座る場所も決まっており自分の居場所を確保している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家族と相談して個人の使用していたタンスや布団など持参している。仏壇を持って来ている人もいる	居室は、ベット・チェスト・棚が備え付けで、温風ヒーター仕様である。使い慣れた家具や仏壇など、馴染みの物を持参して、居心地良く過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見渡しの良い廊下で入居者の移動など見守りも出来き手すりに掴まりストレッチ運動や、階段昇降など筋力の維持に努めている		